



# 学校だより 6月号

～友だちいっぱい 夢いっぱい 未来へ向かって かがやく星の子～



## 学年のつながり 心のつながり

副校長 廣田 晃士

すばらしい晴天の中、「第56回星の子運動会」が行われました。保護者の皆様におかれましては、子どもたちがこれまで頑張ってきた様子を近くでご覧いただき、また、たくさんのご声援をいただきありがとうございました。子どもたちにとって思い出に残る、素敵な運動会になったことと思います。運動会に向けて、子どもたちは約1か月にわたって準備を進めてきました。演技や競技、運動会プロジェクト、リレー、応援団など、様々な場面で運動会を成功させようと一人ひとりが頑張っている様子が伝わってきました。

1・2年生の演技「そらたかくはばたけ！にこにこつばめたち」では、2年生のお兄さん、お姉さんを手本に、1年生が一生懸命にまねをして練習していました。練習が始まったある日、1、2年生の教室にツバメが舞い込んできました。まるで、1、2年生のにこにこツバメたちに「頑張れ！」と応援をしに来たかのようでした。



3、4年生の演技「えがおかがやく シン 星の子エイサー2022」では、昨年度の経験を生かして、4年生が3年生に踊りを教えながら練習を進めていました。4年生は、昨年度自分たちが教えてもらったように、今度は自分たちが3年生に教えたいという思いをもって、合同練習が始まりました。お互いに踊りを見合うことを通して、学年を超えたつながりが生まれ、さらに良い演技につながっていきました。

5、6年生の演技「星の子ソーラン2022～This is it～」では、6年生から5年生にソーラン節の踊りを教えました。5年生に踊りを教えるために、6年生は学年練習の時にどんなことに気を付けたらいいか、細かいところまで気を付けて練習をしていました。そして、合同練習が始まると、担当の5年生に6年生がしっかりと踊りを教えていました。5年生は6年生に合格がもらえるように、緊張をしながら一生懸命練習していったそうです。



運動会の練習後に、ある男の子がこんなことを言っていました。「3年生が上手になって、すごくうれしい。」人の喜びを自分の喜びとして感じられる。とても素敵なことです。

子どもたちは運動会を通じて、学年を超えたつながりを築き上げ、そこには互いを思いやる気持ちや、高めあう熱い思いがあったはずです。一つの目標に向かって本気で頑張ることを通して、子ども同士心のつながりを感じられることがたくさんありました。学年を超えた活動が子どもたちの心を育てる。上星川小学校の伝統として、これからも「心でつながる活動」にたくさん取り組んでいきたいと思っています。